

攝津大寺

毎場いふや西書居らんを
い 市屋う社内井戸家取らざる

「 瓶小路を町古のきんぐい 」

發にあらざるは門あり過

市人學問如迷而之過南

あゝが西親おんあせんこぞん 横所之へい

戸部西由元市より 出迎

永代不敗大土苑

石塔丁角

中戸糖二圓五六十新斗り

たあんろー 甫うど

降正石一 加花一 石一

上之——天祚門 因中并戶家取書

坂本 町下 橋下 町下 五十六
 坂本 町下 橋下 町下 五十六

さや

右一節

多心崩

此外數處亦多有驚多由人

舟物ゆふを、明ふに、此の舟に、
 本町、
 天満、
 安原、
 二丁目、
 圓陣、
 乃、
 乃、

河人考所 為土氣

材木やあらくなむ。

西成郡物社

摩宮

卷之四

中寺所高麻与拱石门

日原古門

古所傳云ト

唐々々々と家四女

とご板

水張

あんどろべんちの病そ外諸君大こんど

惜事の八鹿を室より追ひてくす
いざやんをとうちうりける

大仁村せん市本堂とてなり

虎侍曉下大子
之知志人後編出


物然邪物社
度摩宮
存台崩
落

中古阿 尚麻古 枳雨
月々々 和卷之
日原 山古門
古所 降弓く

随うゝやと家四あは
 ゑと板
 水張
 自



あんどふんちのうまをいれまゝとんで
 皆車の八尾をぬき外へ送り出す
 いざぬんとてうろくをける



大仁村せんちん堂より
尾崎城下より

嘉永七甲寅十二月甲五日

江表大震土人圖奉

